

二〇一六年四月八日

小旋風に渦巻く道の落花かな
みつばちの羽音やまざる花御堂
吟行子花下に佇み身じろがず
雨晴れて落花まみれの車かな
枝に透く川面の綺羅や花堤
花の雲抽んでてをる時計台
堆く春落葉積む神の杜
丁目石辿る道ゆき草若葉

二〇一六年四月七日

総玻璃のカフェテラス打つ花吹雪
子らの声広場に溢れつばめくる
鳶の輪を放ちて山の笑ひけり
花筏かき分け進む屋形船
春の雨空のどこかが明るくて

二〇一六年四月六日

ロープウェイ花のお山を二分けす
いぬふぐり休耕田に地図描く
古都めぐりあちらこちらと花行脚
トランペットひびく川岸夕桜
花筏乱すは鯉の尾びれかな
山桜峡の奈落へ吹雪きけり
花の下介護福祉車駐車せる

せいじ	なつき	豆狸	智恵子	ひかり	菜々	明日香	よう子	有香	とろうち	宏虎	菜々	宏虎	明日香	なつき	三刀	さつき	うつぎ
-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	------	----	----	----	-----	-----	----	-----	-----

二〇一六年四月五日

観覧車いま天辺や花の雲
西行に見せたし花の五月山
制服に別人となる入学児
萌黄なる遠山影や春霞

菜々
よう子
満天
明日香

二〇一六年四月四日

車窓いま花爛漫の万華鏡
花冷えの肩寄せ合ひてコップ酒
音もなく枝折り戸開く花の風
仏壇の扉を全開す春障子

智恵子
なつき
菜々
宏虎

二〇一六年四月三日

鶯に励まされては鋏握る
石庭の穢なき砂紋に春惜しむ

よし女
菜々

二〇一六年四月二日

病棟の窓に展けし花の雲
大桜天蓋なせる殉職碑
しゃばんだま屋根より高く上がらざる

あさこ
よう子
とろうち

毎日句会みのる選・二〇一六年四月一〇日